

2023年7月27日

Audi Q6 e-tron、第2世代のデジタル OLED を採用： インテリジェントで鮮やかなライティング

- 世界初公開のユニークなヘッドライトとリヤライト、アクティブデジタルライトシグネチャー
- MMI および myAudi アプリから、ヘッドライトとリヤライトのデジタルライトシグネチャーを選択
- オンデマンドで利用可能なデジタルライトシグネチャーを搭載したパッケージを提供

(ドイツ本国発表資料) 2023年7月26日 インゴルシュタット/トースハウゼン：第2世代のデジタル OLED リヤライトを採用した Audi Q6 e-tron は、ライトデザイン、機能性、安全性を新たなレベルへと引き上げます。この革新的テクノロジーは、自動車のライトデザインと「Car-to-X」コミュニケーションを根本的に変えることになるでしょう。アウディは、エクステリアライトにより情報を表示することで、他の道路ユーザーとコミュニケーションできるインテリジェントなディスプレイを開発しています。今回発表されるのは、新しいコミュニケーションライトです。アクティブデジタルライトシグネチャーは、Audi Q6 e-tron と同時に世界初公開されます。このライトは、斬新かつ鮮やかな印象を与え、アウディのライティングテクノロジーの未来を示します。進化を遂げたマトリクス LED ヘッドライトのデジタルデイトムランニングライト、および新世代のデジタル OLED リヤライトにより、今回初めて、オプションでデジタルライトシグネチャーを選択できるようになりました。さらに、オンデマンドでデジタルライトシグネチャーを購入することもできます。

Audi Q6 e-tron は、アウディの e モビリティにおける新たな扉を開くだけではありません。このモデルに搭載されるライティングテクノロジーは、アウディの DNA にとって重要な要素となっています。世界初のアクティブデジタルライトシグネチャーを搭載した Audi Q6 e-tron は、アウディ独自のデザインと美学を象徴し、新しい時代の到来を告げます。

第2世代のデジタル OLED テクノロジーは、新しいアウディモデルのエクステリアの特徴となり、その機能は大幅に拡大されています。デジタル OLED リヤライトの印象的なコミュニケーションライトにより、安全性も向上します。また、Q6 e-tron はパーソナライズのための新たな基準を設定します。マトリクス LED ヘッドライトとデジタル OLED リヤライト 2.0 では、デイトムランニングライトのデザインが見直され、これに合計 8 種類のオプションのデジタルライトシグネチャーを追加することで、お客様はこれまでにない方法で、Q6 e-tron の外観を好みのスタイルでカスタマイズすることができます。これは、MMI だけでなく、今回初めて myAudi アプリ経由でも可能になります。さらに、車両納車後にデジタルライトシグネチャーを購入することもできます。

シグネチャーと動きのあるデザインを初めて組み合わせたアクティブデジタルライトシグネチャーヘッドライトとリヤライトは、一見まるで生きて見えるように見えます。これは、世界初のアクティブデジタルライトシグネチャーの第一印象です。この機能は、デジタルライトシグネチャーのオプションパッケージの一部として提供されます。ライティングデザイン責任者のセザール ムンターダは、次のように説明しています。「Audi Q6 e-tron は、市販モデルとして初めて、ライトの形状だけでなく、その動きの両方をデザインしました。ライティングデザインと新しいテクノロジーを完璧に組み合わせたことにより、Audi Q6 e-tron のライトは、これまで以上に鮮やかでインテリジェントに見えます。私たちはライトシグネチャーに独自の個性を与え、同時にデジタル世界に独自の美学を与えました。世界初のアクテ

ィブデジタルライトシグネチャーを採用した Q6 e-tron は、アウディ独自のデザインと美学の新時代の到来を告げるものです」。

アウディとアウディグループのソフトウェア開発会社 CARIAD が、共同開発したソフトウェアモジュールにより、このライトシグネチャーが可能になります。このモジュールは、Audi Q6 e-tron のドメインコンピューターに組み込まれています。第2世代のデジタルOLED リヤライトでは、それぞれ360のセグメントを備えた6枚のOLEDパネルが、専用開発されたアルゴリズムを使用して10ミリ秒ごとに新しい画像を生成します。このアルゴリズムにより、アクティブデジタルライトシグネチャーは、Q6 e-tron の「思考」を動きにより可視化することで、車両の反応を表現し、個人的な対話能力を実現します。フロントのアクティブデジタルライトシグネチャーは、アルゴリズムと12個の調光可能なセグメントの組み合わせによって生成され、リヤではすべてのデジタルOLEDセグメントが使用されます。個々のライトセグメントは相互に作動するため、ライトシグネチャーの全体的なイメージの光度が変化することはありません。

第2世代デジタルOLEDテクノロジー

2016年、アウディはAudi TT RSに新しいライティングテクノロジー（デジタルOLEDテクノロジー1.0）を導入しました。このモデルは、有機LED（OLED）をリヤライトに使用した最初のモデルでした。OLEDエレメントは、完全な均一性と高いコントラストを備えた光を生成する半導体ベースの面光源で、明るさも調整可能です。さらに、OLEDライトの形状は自由に設定することが可能で、切り替え可能なセグメントに正確に分割できます。OLEDリヤライトのダイナミックなライティングシナリオも、Audi TT RSと共に初登場しました。

2020年、デジタルOLEDリヤライトを採用したAudi Q5が登場し、初めて個別のリヤライトシグネチャーを選択できるようになりました。これにより、アウディはリヤライトシグネチャーをデジタル制御する最初の自動車メーカーとなりました。ライトシグネチャーの変更は、OLEDの主な特徴である、高いコントラスト、切り替え可能なゾーンのセグメント化、高い光均一性に加え、セグメントを非常に密に配置する機能によって実現しました。アウディは、このようなテクノロジーの進化を提供する、唯一の自動車メーカーであり続けます。

2022年、このオプションはデジタルOLEDリヤライトを備えたAudi A8に標準装備されました。このモデルでは、CPUや周辺機器を接続するバスシステムにより、ソフトウェアで各リヤライトパネルと各OLEDセグメントを個別に制御できるようになりました。Audi A8では、MMIを介して3種類のリヤライトシグネチャーを選択することができます。さらに、S8では4種類を選択可能です。

ライティング開発責任者 ステファン ベルリッツは次のように説明し、このテクノロジーの背景にある明確な戦略を示しています。「アウディは、リヤライトにOLEDテクノロジーを使用する可能性を早くから認識しており、それ以来、このテクノロジーを採用する唯一の自動車メーカーとして、体系的に開発とデジタル化を進めてきました。その結果、これまでにない幅広いライティング機能をお客様に提供できるようになりました。デジタルOLEDは、従来のライティングシステムよりも構造がシンプル、軽量で、均質な光を発します」。ベルリッツは、未来を見据えて次のようにコメントしています。「デジタルOLEDは、その強いコントラストにより、徐々にエクステリアディスプレイとして利用されており、車両の周囲とのコミュニケーションを可能にする重要な要素となっています。2020年からは、proximity indication function（光を利用した他の道路利用者とのコミュニケーション機能）により、光を使用して他の道路ユーザーにメッセージを送ることが可能になっています。Audi Q6 e-tronにはコミュニケーションライトが追加され、安全性がさらに向上しています」。

第2世代デジタルOLED リヤライトの詳細

Audi Q6 e-tron およびその後のモデルのリヤライトに次世代デジタル OLED を採用することで、オーディは機能とデザインの自由度を大幅に拡大するだけでなく、安全性も向上させます。今回初めて、デジタル OLED リヤライトは、実際に走行する環境の中で具体的なコミュニケーションを行うことができるようになりました (Car-to-X コミュニケーション)。デジタル OLED パネル 1 枚あたりのセグメント数は、第1世代の6から60に増加しました。Q6 e-tron のリヤライトには、6枚の OLED パネルが使用され、合計 360 のセグメントに分割されています。新しい E3 電子アーキテクチャーにより、ドメインコンピュータの 1 つのソフトウェアモジュールを使用して、この大幅に増加したセグメントを制御できるようになりました。デジタル OLED パネル 1 枚あたりのセグメント数が今後も増加することにより、将来的には、自動車のリヤライトをディスプレイとして活用し、Car-to-X コミュニケーションを強化して、安全性をさらに高めることが可能になります。

革新的なデジタル OLED テクノロジーは、他に類を見ない均一な光と非常に高いコントラストを特徴とし、全く新しいリヤライトデザインの可能性を広げます。このテクノロジーには、他にも利点があります。面光源には反射板、ライトガイド、光学系の装置が必要ないため、構造が非常にシンプルになります。これらの特性を組み合わせることで、オーディのエンジニアとデザイナーは、従来の2次元および3次元デザインの境界を打ち破ることができます。つまり、平面上に立体的な造形を生み出すことが可能になります。リヤに統合された表現力豊かな LED ライトストリップに加え、3D ガラスを採用することにより、リヤライトシグネチャーを他のライティング機能から分離することに成功しました。

オーディは、車両のフロント部分にも革新的な機能を採用しています。次世代のデジタルデイトムランニングライトとライトモジュールは視覚的に分離され、デザインがより明確になりました。デザイナーは、合計 70 個の LED ユニットを透明な 3D オブジェクトとして設計することにより、革新的なデジタルデイトムランニングライトの開発に成功しました。デジタルデイトムランニングライトのフロントセクションは、精密なプリズム構造を備え、金属製の 3D トリムがそれらを取り囲んで、特徴的なデジタルアイを創出しています。

インテリジェントなヘッドライトとリヤライトによる安全性の向上

オーディはまた、車両の安全機能を新たなレベルへと引き上げています。他のオーディモデルではおなじみの機能である車両接近アラートが、新型 Q6 e-tron では拡張され、コミュニケーションライトが組み込まれました。このライトは、デジタル OLED リヤライトと統合されており、危険な道路状況では警告シンボルと通常のリヤライトグラフィックによる特定のリヤライトサインを表示することで、後続車に事故や故障といった危険を事前に知らせます。このように、アシスタンスシステムは、オーディドライバーやその他すべての道路ユーザーを支援します。デジタル化されたヘッドライトを通じて道路ユーザーに事故や危険を警告する A8 の高度な交通情報システムと同様に、コミュニケーションライトは人工知能技術であるスワームインテリジェンス (群知能) に基づくデータを使用します。さらに、第2世代デジタル OLED リヤライトは、エマージェンシーアシスト、RECCAS (追突警報信号)、ハザードランプ、エマージェンシーコール (eCall)、ロードサイドアシスタンスコール (bCall)、エマージェンシーブレーキライトの各警告シンボルをコミュニケーションライトに表示します。

コミュニケーションライトは、エグジットワーニングにさらなる安全機能を追加します。以前は、別の車両や自転車近づいてきた場合など、車両から降りる場合のみ乗員に警告していました。しかし、新しい機能では、リヤライトのグラフィックに専用のライトシグネチャーが表示され、後方から近づいてくるサイクリストやドライバーに警告します。このようにして、Audi Q6 e-tron は、安全コンセプトを他の道路ユーザーにも拡張し、すべての人々の交通安全を向上させます。

さらに、コミュニケーションライトは、自動駐車モードを使用しているときに、パークアシストのステータスを示すために、前後に特定のライトシグネチャーも表示します。これにより、すぐ近くにいる道路ユーザーは、車が安全に注意して近づいていることがわかります。

新しいレベルの自由な選択肢：MMI と myAudi アプリ経由で利用可能なデジタルライトシグネチャー
ヘッドライトとリヤライト用に、最大 8 種類のデジタルライトシグネチャーを用意したことにより、ドライバーは Q6 e-tron をカスタマイズする新しい自由な選択肢を楽しむことができます。ユーザーは、myAudi アプリを使用するか、車内で MMI を使用してシグネチャーを選択できます。カミングホーム/リービングホーム ライティングシナリオを備えた 6 種類の追加シグネチャーと、それに対応するデジタルライトシグネチャーは、追加のオプションパッケージを通じて利用できます。

ユーザーは、myAudi アプリを介して、車外からパーソナライズしたライトシグネチャーを点灯させて、ダイナミックライティングシナリオおよびカミングホーム/リービングホームの機能を直接見ることができます。第 2 世代デジタル OLED リヤライトのコミュニケーションライトや近接表示も同様です。さらに、マトリクス LED ヘッドライトの道路標識反射抑制機能およびオブジェクトマスキング機能のデモンストレーションを見ることも可能です。

Audi Q6 e-tron をさらにカスタマイズするために、お客様は車両購入後に、オンデマンド機能を使用して、LED ヘッドライトプラス/マトリクス LED ヘッドライトおよびデジタル OLED リヤライト用のデジタルライトシグネチャーのパッケージを購入できます。お客様は機能を買取るすることも、特定の期間だけ購入することもできます。このような柔軟性により、お客様は好みに合わせて最大 8 種類のデジタルライトシグネチャー（デジタル OLED リヤライトおよび LED ヘッドライトプラス/マトリクス LED ヘッドライトを組み合わせた場合）を選択可能です。また、ハイビームアシストとマトリクスパッケージをオンデマンドで購入することもできます。

※本リリースは、AUDI AG 配信資料の翻訳版です。

※ 日本仕様の導入時期、仕様、価格は未定です。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

アウディ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

お客様問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター
0120 - 598106



アウディ グループは、プレミアムおよびラグジュアリーセグメントの自動車およびオートバイのメーカーです。グループに属するアウディ、ベントレー、ランボルギーニ、ドゥカティのブランドは、13 カ国 22 か所で生産されています。アウディとそのビジネスパートナーは、世界 100 以上の市場に存在しています。2022 年、アウディ グル



ープは、161万台のオーディ、15,174台のベントレー、9,233台のランボルギーニ、および61,562台のドゥカティを販売しました。2022会計年度において、オーディグループは総収益61.8億ユーロ、営業利益7.6億ユーロを達成しました。世界中で、オーディグループでは2022年に87,000人以上が働き、そのうち54,000人以上がドイツのAUDI AGで働いていました。魅力的なブランド、新しいモデル、革新的なモビリティサービスにより、グループは持続可能で個性的なプレミアムモビリティプロバイダーへの道を着実に歩んでいます。
